

視 察 日 時	令和7年5月28日（水） 午前10時～正午
視 察 先	宮崎県西都市（説明：認定NPO法人東米良創生会）
視 察 項 目	東米良地区農村RMO事業の取組みについて
視 察 概 要	1 取組みの経緯 宮崎県西都市東米良地区では、過疎地域の課題解決、集落の維持、振興などに取り組む「東米良地区1000年協議会」が実施する農村RMO事業について視察研修・調査を行いました。運営組織NPO法人「東米良創生会」の事務局長石川理恵氏より説明を受けるとともに、聞き取り調査を行い、その後、ジビエ処理施設や無人商店の視察を行いました。 東米良地区は、宮崎県西都市の「水がめ」一ツ瀬ダム湖沿いの国道219号線から9km入った山間に115世帯207人の暮らす地域です。 今回の研修会場は、地域内にある旧小学校であり、現在は改築され運営組織NPO法人「東米良創生会」の事務所のほか、デイサービス室、交流・会議・研修などに活用されています。 東米良地域の出身者で西都市内に住み、後に東米良創生会会長となる濱砂重仁氏は、自らが運営する社会福祉法人（医療・介護）の地域貢献活動として活動母体の設立を提案するとともに、同地域出身者に協力を呼びかけるなど、令和2年度の設立にあたり中心的役割を担いました。また、事務局として推進を担ってきたのは当時の社会福祉法人の女性職員2名であり、本視察の説明員はその中核となった方でありました。 東米良創生会は基本理念として「教育の推進、充実」、「伝統文化の継承」、「地場産業の発展及び新規事業の開拓と誘致」の3つを柱に掲げ、会員の相互扶助による運営が行われていました。「1000年続く村・東米良プロジェクト 循環型山村づくり」は、東米良地区の人口500人を目標とし、歴史、文化、暮らし続けてきた集落をキーワードとした交流人口の増加を図るための取組を行っており、実施にあたっては国の支援制度を積極的に活用していました。 その支援制度活用の課題であった申請手続きなどの煩雑な事務作業をNPO事務局が担い「中山間地域等直接支払交付金」や「農村RMO事業」を活用した自治活動の再構築が図られていました。 2 取組みの現状と課題解決に向けた今後の取組み 地域の中心地には、地域の日常活動、生活の要である旧小学校の運営組織NPO事務所とデイサービス施設等があり、中学校を改築した施設一体型の小中一貫校「西都銀上学園」（児童・生徒21人）では山村留学も行

	われていました。また、農協支所、郵便局が存続され、山の駅「銀鏡」も整備されていました。そして、地域産業の中心は農林水産業であり、水田に適した農地が少ないことから、畑でのゆず栽培とその加工品製造や林業、淡水魚（鯉、チョウザメ）養殖が行われており、最近では、鹿・イノシシなどのジビエ処理加工施設が併設された無人商店「めらんストア」（ライン登録・利用が可能）が設置、運営されていました。 現在、課題解決に向け取組みを始めているのが、無くなってしまったガソリンスタンドの誘致・再整備、通信網の整備であり、先進的な整備手法が検討されているとのことでした。 地域おこし協力隊については、地域住民のつながりを活かし、出身者も含め「地域に帰って来てほしい人」を募集、迎え入れ、地域づくり人材として定着が図られていました。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	取組みの中核を担う運営組織NPO法人「東米良創生会」では、事務局（よそ者）が地域住民や団体に交じって、現場の状況や課題を知ることから、住民の「あきらめ感」を前向きな「当事者意識」へ変化させてきた様子と実態が伝わってきました。驚いたことは、地域課題の解決にあたるこのNPO法人に、西都市に合併した同地区（旧東米良村）に接しながら合併しなかった西米良村の前村長が理事として在職しており、現在の村長が元理事として在職していたことです。歴史・文化・風土が類似する両地域が交流することで、東米良地区で「合併で失われたもの、課題が見えてくること」「山間部の自治体の課題解決手法をNPO法人が享受できること」が、この人員配置の狙いであると思います。その背景には、NPO法人会長である濱砂重仁氏の「地域愛・地域社会づくり思想」があり、社会福祉法人が位置付けている「地域貢献活動」を起点にした構想があると考えられる。村おこし情報誌「ひがしめら」に濱砂氏の思いが綴られており、25年前に東米良診療所閉院の危機を自身が引き受け、診療継続を図ってきたことが、地域を存続させる「地域づくり」の原点にあると感じました。 鶴岡市も市町村合併から20年を迎え、特に旧町村、中山間地域、周辺部での人口減少による課題が山積し、「中山間地域等直接支払交付金」の活用・実践も行われています。本市でも東米良地区と同様に国の支援制度の継続にあたり申請手続きなどの煩雑な事務作業が課題に挙げられています。課題解決に正面から向き合う東米良地区の取り組みには、公共の理念と志を持つ「人づくり」が中核となり、住民が主人公である「当事者意識」に変化させ、将来の目標を定め実践に邁進している姿と、そのために発展的に「農村RMO事業」の支援制度の活用・具体化が

	図られ、地域づくりに活かされており、学ぶところの多い取組みだと実感しました。
--	--

報告者 産業建設常任委員会 菅井 巖